

第4節 広島豊かな「生物多様性の保全」

第1款 生態系の健全な維持管理

1 豊かな恵みを次世代へ継承する取組の推進

【現状と課題】

本県は、中国山地を形成する1,000m級の山々の北部積雪地帯とそれに続く内陸の台地、気候温暖な瀬戸内沿岸部や島しょ部からなり、その複雑な地形と多様な気候によって、豊富な生物相を有しています。一方で、県内に生息する野生生物15,314種のうち、絶滅のおそれのある野生生物として1,000種（うち19種は既に絶滅）が選定され、そのうち緊急に保護対策を要する野生生物としてミヤジマトンボなど動物7種、ヤチシヤジンなど植物4種が「野生生物の種の保護に関する条例」により、指定野生生物種等に指定されています。

こうした希少な野生生物について、生息・生育状況等の現状を把握するとともに、野生生物に関する情報の提供を行い、野生生物保護思想の普及啓発を行う必要があります。

また、「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」や「野生生物の種の保護に関する条例」に基づき、野生生物の保護を進めるとともに、鳥獣保護区や野生生物保護区の指定などにより、生息・生育域の保全を図る必要があります。

一方、シカやイノシシなどの一部の野生鳥獣については、農林業への深刻な被害が生じており、また、指定野生生物種であるツキノワグマによる人身被害が発生するなど、適切な個体数管理が求められています。

さらに、海外から持ち込まれた外来生物が、人間の生活や生態系に大きな影響を及ぼしており、本県においてもアライグマやアルゼンチンアリ、セアカゴケグモなどの特定外来生物の生息が確認されており、生息域の拡大を防止する必要があります。

これらの課題について、総合的かつ計画的に対策を実施するため、平成25年3月に「未来へつなげ命の環！広島プラン～生物多様性広島戦略～」を策定し、生物多様性の保全及びその持続可能な利用を図ることとしています。

図表 4-1-1 絶滅のおそれのある野生生物の種の選定状況（平成23年度）

分類群	県内種数	カテゴリー別種数					選定種数
		絶滅	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	準絶滅危惧	要注意種	
種子植物・シダ植物	2,928	4	109	145	140	60	458
コケ植物	719		38	10	4	2	54
藻類	1,258		1		11	17	29
地衣植物	382	1	3	5	7		16
菌類	700			12	30		42
哺乳類	43	3	6	5	8		22
鳥類	302		8	10	14	11	43
爬虫類	16			1	3	2	6
両生類	19		1	5	4		10
汽水・淡水魚類	84	2	10	5	12	8	37
昆虫類	8,318	8	46	36	92	37	219
貝類	133	1	6	8	14	7	36
その他無脊椎動物	412		1		12	15	28
合計	15,314	19	229	242	351	159	1,000

資料：県自然環境課

図表 4-1-2 指定野生生物種等の指定状況

種名	分類	種名	分類
ツキノワグマ	哺乳類	ヒメシロチョウ	昆虫類
アビ類 (シロエリオオハム, オオハム, アビ)	鳥類	ミズニラ (シナミズニラを含む。)	シダ類
ダルマガエル	両生類	オグラセンノウ	種子植物
スイゲンゼニタナゴ	淡水魚類	ツルマンリョウ	〃
カワシンジュガイ	陸淡水産貝類	ヤチシャジン	〃
ミヤジマトンボ※	昆虫類	計11種類 (※は特定野生生物種。)	

資料：県自然環境課

図表 4-1-3 野生鳥獣による農作物被害額 (単位：百万円)

区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28
イノシシ	501	394	351	307	298	289
シカ	69	48	55	50	42	35
サル	20	19	13	12	8	11
その他獣類	14	15	11	11	9	9
鳥類	88	68	47	93	56	53
計	692	544	477	473	413	397

資料：県農業技術課

【環境の状態等を測る指標・環境施策の成果を示す指標】

指標の区分	指標項目(内容)	単位	基準年度値(H26)	現状値(H28)	目標値(目標年度)	目安※1	指標の達成率	進捗状況
環境	鳥獣保護区面積	ha	59,507	58,506	58,602以上(H28)	58,602	99.8%	概ね達成
環境	レッドデータブックひろしま掲載数	種	1,000	1,000	設定なし	—	—	—
施策	生物多様性に関する講習会等への参加人数	人/年	1,964(H25)	5,288	3,000(H29)	2,741	192.9%	目標以上達成
環境	ツキノワグマ年間除去頭数(※注)	頭/年	77※2	267※2	78以内※2(H28)	78	▲242.3%	(※注)
環境	イノシシ年間捕獲頭数	頭/年	27,166	25,100(H27)	22,000以上(H28)	22,000	114.1%	目標どおり達成
環境	ニホンジカ年間捕獲頭数	頭/年	9,481	9,736(H27)	8,000以上(H28)	8,000	121.7%	目標以上達成

※1 目安は、目標値を現状で達成すべき水準に按分した数値

※2 広島県、島根県、山口県の合計

(※注)「ツキノワグマ年間除去頭数」については、昨年度出没件数が多かったこと、秋田県でクマによる死亡事故が相次いで発生したこと、島根県で人身被害が発生したことなどにより、クマ保護(放獣)に対する理解を得ることが困難な状況が続いたことから、特に島根県での除去頭数が増加した。

<H28 除去頭数の内訳> 広島(51頭)、島根(191頭)、山口(17頭) 計 267頭

<H27 除去頭数の内訳> 広島(23頭)、島根(16頭)、山口(9頭) 計 48頭

【取組状況】

(1) 生物多様性の保全活動の推進

ア 広島県生物多様性保全推進事業 [自然環境課]

生物多様性の保全を図るためには様々な主体が連携した継続的な取り組みが求められます。このため、外来生物の防除や捕獲に関する講習会や、生物多様性に関する普及啓発活動を行う人材育成の支援を実施しています。

【平成28年度実績・平成29年度内容】生物多様性に関する普及啓発活動を行う人材を育成し、普及啓発活動を行う任意団体を継続して支援。専門家を招き、アライグマの防除・捕獲の講習会を実施。ヒョウモンモドキ保全地域協議会・芦田川水系スイゲンゼニタナゴ保全地域協議会への参画。

イ 八幡湿原自然再生事業 [自然環境課]

西中国山地国定公園の八幡湿原地域は、乾燥化が進みつつあるため、損なわれた生態系その他の自然環境を取り戻すことを目的として、自然再生事業を行っています。



【平成28年度実績・平成29年度内容】八幡湿原自然再生協議会等との連携により、再生整備後の再生状況の経過観察や環境学習への活用を促進。ニュースレターの発行。年間を通じて自然再生地での地下水位を観測しデータを分析。

ウ 愛鳥週間ポスター募集 [自然環境課]

鳥獣保護の意識啓発のため、小学生、中学生、高校生を対象に愛鳥週間のポスターを募集し表彰しています。

【平成28年度実績・平成29年度内容】ポスターを募集し、鳥獣保護の意識啓発を実施。

平成28年度愛鳥週間ポスター特選（平成27年度募集分）

		
<p>大竹市立栗谷小学校 4年 横道 双葉</p>	<p>如水館中学校 3年 高橋 花鈴</p>	<p>広島県立福山誠之館高等学校 2年 妹尾 早希</p>

エ 道路改良により生じる法面の自然植生の回復 [道路企画課, 道路整備課]

【平成28年度実績・平成29年度内容】道路法面の緑化については、生態系への影響などを考慮して、周辺の植物を用いた植栽や在来種による植生を実施。

(2) 野生生物の現状の把握及び対策の推進

ア ミヤジマトンボの生息環境の整備 [自然環境課]

緊急に保護を要する種として「野生生物の種の保護に関する条例」において唯一「特定野生生物種」に指定されているミヤジマトンボの絶滅を回避するため、生息環境を整備するとともに、幼虫の人工孵化・飼育を行っています。

【平成28年度実績・平成29年度内容】専門家、関係機関で構成するミヤジマトンボ保護管理連絡協議会において、生息地の環境整備等について検討し、生息環境の整備（獣害防止柵の設置、潮汐湿地への水路確保等）を実施。また、絶滅リスク分散のための生息域外保全（人工孵化・幼虫飼育）を実施。

イ 外来生物の生息域の拡大防止 [自然環境課]

外来生物による生態系のかく乱及び農業被害・生活被害の防止に努めています。

【平成28年度実績・平成29年度内容】「アルゼンチンアリ対策広域行政協議会」において情報交換を行うことにより市町の自主的な防除の取組を促進。また、セアカゴケグモの防除等に係る指導を実施。

ウ 公共事業や開発事業における野生生物に対する配慮 [道路企画課, 道路整備課]

【平成28年度実績・平成29年度内容】規模の大きな事業等を進める際、環境アセスメントを行い、猛禽類等、レッドデータブックに記載されている希少種等を調査し、存在が確認された場合には、生育環境等を勘案してルート等を決定。

(3) 人と野生鳥獣の調和的共存の推進

ア 特定鳥獣保護管理計画の推進 [自然環境課]

イノシシとニホンジカについては、農林作物の被害が高止まりした状態であるなど、人の生活や経済活動と野生動物との軋轢の解消を図るため、適切な管理（個体数調整を含む。）が求められています。

ツキノワグマについては、人身被害の防止を図りつつ、西中国山地に生息する地域個体群の保護管理を山口県・島根県とともに3県共同で実施しています。

【平成28年度実績】ニホンジカの生息状況調査（糞塊密度調査）、出没の予測や住民等への注意喚起を行うためのツキノワグマの餌食物である堅果類の豊凶調査、ツキノワグマの生態等に関する正しい知識と人身被害を回避するための知識の習得に係る学習会を実施。

【平成29年度内容】職員研修を実施。人と野生動物の調和的共存を図るため、科学的なデータに基づいた総合的な野生動物の保護管理を推進。

イ クマレンジャー事業 [自然環境課]

クマ出没地域周辺のパトロール等を実施することにより、ツキノワグマの里山への定着化を防止し、人身被害発生の危険性を軽減します。

【平成28年度実績・平成29年度内容】クマ出没地域周辺のパトロール等を実施。

ウ ツキノワグマの対策協議会の運営 [自然環境課]

保護管理対策を円滑に実施するため、県と関係市町で構成する「県ツキノワグマ対策協議会」で、保護管理対策を検討・実施するとともに、ツキノワグマによる人身事故被害者への見舞金制度による支払いを実施しています。

【平成 28 年度実績・平成 29 年度内容】構成 11 市町とともに、保護管理対策について検討・実施。

エ 鳥獣保護区等の設定 [自然環境課]

狩猟による鳥獣の捕獲を禁止し、その安定した生存を確保するとともに、多様な鳥獣の生息環境を保全・管理及び整備するため、第 12 次鳥獣保護管理事業計画に基づき、鳥獣保護区等を設定しています。

【平成 28 年度実績】鳥獣保護区（99 か所 58,506ha）。

【平成 29 年度内容】鳥獣保護区（99 か所 58,506ha）。